

## 平成28年度新初期研修医合同研修会の開催報告

茨城県地域医療支援センターでは、今年度、本県において初期研修をスタートさせたすべての研修医を対象とした、「新初期研修医合同研修会」を平成28年4月14日に茨城県庁にて開催いたしました。本研修会は、平成26年度より開催しており、今年度で3回目になります。今回は、研修医145名、指導医等25名、総勢170名の参加をいただきました。

研修会は、3部構成で実施し、第1部では本県の政策医療の実施体制や「若手医師教育研修立県」として実施する先進的な研修事業、県内医療機関の研修会等について説明しました。また、茨城県医療改革担当顧問の山口巖先生より、アメリカのメイヨー・クリニックを参考としたチーム医療等の重要性についてご講演いただきました。

第2部では、茨城県グローバル人材育成事業及び、群星沖縄・米国医学教育交流事業参加者から、それぞれの研修で得た経験の発表や初期研修医に向けてのメッセージを発信していただきました。

第3部では、交流会を行い、初期研修医に加え、県内各医療機関の院長先生や指導医の先生にもご参加いただき、有意義なコミュニケーションを図ることができました。

### 内容

#### 【第1部】茨城県の地域医療の動向等について

- (1) 茨城県の医療体制について
- (2) 若手医師の支援制度について
- (3) 若手医師へのエール<茨城県医療改革担当顧問 山口巖先生>

#### 【第2部】研修報告会

- (1) グローバル人材育成プログラムへの参加結果について  
<茨城県立中央病院 桑名 梨里子先生>
- (2) 群星(むりぶし)沖縄・米国医学教育交流事業への参加結果について  
<茨城県立中央病院 井口 裕介先生>

#### 【第3部】交流会



## 研修事業のご案内

### ～指導医団国内派遣事業のお知らせ～

指導医のさらなる指導技術の向上を図るため、先進的な指導・教育に取り組んでいる沖縄県に7日間程度派遣します。

**対象** 県内医療機関に勤務する概ね40歳以上の医師 **日程** 平成28年11月6日(日)～12日(土) **募集人員** 3名

**参加費** 研修のための経費(交通費、宿泊費等)は県負担

### ～指導医団国外派遣事業のお知らせ～

日本とは違う様々な場面でのレジデントに対する指導を通して、さらなる指導技術の向上を図るため、米国(ハワイ)に10日間程度派遣します。

**対象** 県内医療機関に勤務する概ね40歳以上の医師 **日程** 平成28年11月14日(月)～23日(水) **募集人員** 5名

**参加費** 研修のための経費(交通費、宿泊費等)は県負担 ※一部自己負担あり

### ～茨城県グローバル人材育成プログラム追加募集について～

高い倫理観と地域医療への使命感を持った若手医師を、海外医療現場での臨床を通して高度技術を習得するために、欧米等の医療現場へ派遣します。

**派遣期間** 原則1ヶ月以上3ヶ月以内(平成28年度内) **募集人員** 3名

**派遣費用** 海外研修のための経費(交通費、宿泊費等)は県負担 ※上限あり

募集期間:平成28年7月15日(金)まで 申込方法:詳しくは茨城県地域医療支援センターホームページにてご確認ください。

# 「医師不足の地域というのは、研修医の先生にとっては充実して過ごせるチャンスだと思います」

呼吸器内科の医長として地域医療に取り組み、昨年度、沖縄での指導医団国内派遣事業に参加された三浦由記子先生に、お話を伺いました。

## …茨城東病院の呼吸器内科の特色についてお聞かせください。

呼吸器内科では、急性期から慢性期の疾患を多岐にわたって診ています。急性疾患では肺炎や急性呼吸窮迫症候群、慢性疾患では肺がんや感染症、慢性閉塞性肺疾患、気管支ぜんそくや睡眠時無呼吸症候群などです。呼吸器内科は、診断が難しく、診断がついてもなかなか完治しなかったり、また治療法が確立されていない分野が多いので、個々の患者さんに合わせたオーダーメイドの医療が必要になってくる科です。自分自身の能力や知識を深めていけばいくほど、患者さんの糧になるのでそういう意味では非常にやりがいがあります。呼吸器内科に入って、私自身は一度も後悔したことがないし、この科を選んで良かったと思っています。

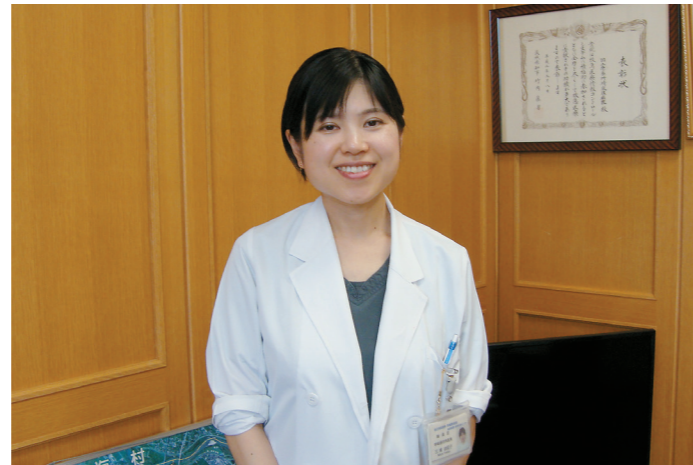
## ●**県北地域の呼吸器内科不足は深刻です。**

### …**周辺地域の医療状況はいかがですか？**

私は2008年に初めてこの病院に来ましたが、県北の医師不足が深刻なのはもちろんのことで、まず驚いたのは、救急車の到着までの時間の長さや、在宅酸素を導入されている患者さんご自宅が病院から遠いことでした。福島県からも患者を受け入れています。それまでは、市中の総合病院勤務で、近くで救急車のサイレンが鳴れば自分の病院に来るとわかっていましたので、当直室にいても呼ばれる前からスタンバイしていました。ここでは、大子町や常陸大宮市の救急隊からあと50分で行きますと連絡があるのです。いかに県北地域の呼吸器内科が少ないかということを実感

独立行政法人国立病院機構 茨城東病院

胸部疾患・療育医療センター 医長 **三浦 由記子**



します。

### …**他の病院との協力体制は？**

単科の病院なので他科の疾患の対応が難しく、循環器に関しては、ひたちなか総合病院さんに地域医療連携室を通して協力体制をお願いしています。夜間は、直通で3人ほどの先生と連絡が取れる体制を整えていただいています。例えば、早朝に不整脈で来られた患者さんが急性心筋梗塞だった時に、当院では対応できず、ひたちなか総合病院さんが既に2人の急患対応中であるにもかかわらず、快く受け入れてくださいました。都内の病院で勤務していたときは病院が沢山ありましたから、急患が断られるということがよくありました。でも、ここでは病院が少ないので、断られることが少なく、このような協力体制は有難いと感じています。

## ●**医師としての原点に立ち返る機会になった沖縄研修。**

…**沖縄での指導医団国内派遣事業に参加されていかがでしたか？**  
一番印象的だったのは、皆で研修医を育てるという環境が

当たり前のようにあったことです。沖縄では、自分たちの病院のためだけではなく、世界のどこに行っても通用する医師を育てるという目標を掲げて研修医を教育しています。その教育には医師だけではなく、メディカルスタッフの方々も介入しています。指導医の先生は身体所見をすごく大事にしている、患者さんと直にふれあい、得た自分の所見から何を考えるのかという原則を熱心に教えていました。患者さんの声をよく聞いて体の診察をしっかりとするという原点を、自分も若い先生に見せて伝えていくことが重要なだと再確認できたので、参加して良かったと思います。

また、沖縄での研修は、指導医としてだけでなく、医師としての原点に立ち返る機会にもなりました。研修が毎年続けられて多くの先生が参加して下さると、茨城の医療の発展にもなると確信しています。

### …**研修での経験をどのように生かしていきたいですか？**

沖縄の研修制度で真似できそうなことが、いくつかありました。沖縄中部病院では“コアレクチャー”というものがありました。一人目の呼吸器内科の先生は英語で論文を書くことの重要性和、人とのつながりの大切さを講義されていました。二人目の整形外科の先生は、痛み止めのレクチャーで、外科の先生なのに内科的な豊富な知識を持っておられました。痛みは患者さんにとって本当に辛いものだから、緩和する努力をしすぎるといいことではないので、攻めの治療を行って欲しいというメッセージを若手に送っていらっしゃいました。三人目の先生は総合診療科の先生で、高齢者の診察の基本を伝授されていました。敬って声かけをする等、人間的なことを含めたレクチャーをされていて、県内でも今後実践できれば良いと思いました。さらに、沖縄には事務局でも研修医をサポートする等、指導医を周りがカバーしてくれる環境がありました。茨城県でもそういう環境が、徐々に整ってほしいかと思っています。

沖縄の医療には、“地域住民のために”という思想がしっか

り根付いていました。茨城県もそういった概念を持って努力をしていますので、さらにいい医療が出来ていくと思います。そして研修医の先生たちが育ち、また帰って来てくれれば、教育側のリソースといったものも確保できると思うので、そういう流れができていくと、茨城県も沖縄に近づいていけると思いました。

## ●**一人ひとりに合った手づくりの医療をすることがやりがい。**

### …**仕事のやりがい、生きがいについて？**

呼吸器内科では侵襲のある検査も必要になるので、検査をやった患者さんに対してその結果を大事にし、院長や上司に何度でも相談をします。また社会的なことも関わってくるので、メディカルスタッフの方々にも意見を聞いたりしながら方針を決めていく中で、一人ひとりに合った手づくりの医療をすることにやりがいを感じます。生きがいは、医者であることそのものです。

### …**若手医師・医学生に向けてのメッセージをお願いします。**

例えば、検査結果や画像に現れる前に人の体は変化することがあって、それは毎日見ている中でのわずかな変化から分かることもあります。人の体の変化は一番側にいる人だからこそ分かります。いち早く急変のにおいを嗅ぎ付けるためにも、医学的知識を得ること以上に、むしろ患者さんの声を聞く、直接手を当てて診察することに時間をかける、研修医はそういった、“患者さんのことを一番に知っている存在”であることが大切だと思います。とにかく、ベッドサイドに足を運ぶことです。

また、迷った時は自分の家族だったらどうするかを考えて行動すれば、おのずと正しい道は見えて来ると思うので、そういうことを心げながら研修生活を送っていただければと願います。茨城県では、研修医も即戦力となりますから、充実した研修生活も送れるし、育つのも早いと思います。医師不足地域というのは若い人が育つために上手く活用できる土地なのではないかと思っています。

## 病院紹介 コーナー

### 水戸済生会総合病院

(茨城県水戸市双葉台3-3-10)



済生会は、明治44年に明治天皇の御下賜金を基に設立され、平成23年には100周年を迎えた伝統ある全国的医療福祉団体です。水戸済生会総合病院は済生会茨城県支部の病院であり、地域医療の中核病院の一つでもあります。救命救急センター（3次救急）で茨城県ドクターヘリ基地病院、周産期母子医療センターと政策医療を担っており、水戸市医師会病棟を有し、地域医療支援病院、茨城県がん診療指定病院の認定を受け、最新医療設備を整え地域医療に貢献してきました。また、経済的に恵まれない人々に対する無料低額診療事業を行っており、これは済生会のもつ大きな特徴です。

さて、初期臨床研修に関しては、研修医個人にあわせてで

きる限り希望に添うよう努力しております。臨床各科の指導医も非常に熱心で、充実した臨床研修を行っているものと自負しております。症例は十分な量と質があり、また水戸医学生セミナーをはじめとする参加型ワークショップも豊富に開催されています。さらに済生会独自の全国的な取り組みもあります。医学生の皆さんに、当院で初期研修をしていただき、我々と一緒に学んでもらえたらと願っています。もちろん見学大歓迎です。  
(副院長 仁平 武)

## 研修医リレーエッセイ

筑波記念病院

初期臨床研修医 **神野 和志**

時間が立つのは早く、2年間の研修期間も折り返しとなりました。1年目は、日々自分の未熟さを痛感しながらも周囲に支えられ、育ててもらい、ゆっくりではありますが成長できた1年だったと思います。2年目になると後輩も出来、1年目に比べ要求されることも増えてきました。自分の判断に責任をもって行動することが必要だと痛感しています。

1年目の間は患者さんに寄り添って治療方針を考えたり、手技ができるようになったりすることが目標でしたが、今後は少しずつ自分の判断や手技に責任を持って治療にあたる事

が出来ればと思います。そのためにもさらに経験を積んで自分を高めていきたいと思っています。

当病院では症例が豊富にあり基本的な手技を行う機会が多くあります。また、それぞれの科の先生が熱心に教えてくれ、抄読会や症例発表の機会も豊富にあります。チャンスがあれば論文や、学会発表をすることも出来ます。出来れば今年には論文を書いたり、学会発表が出来ればと思っています。今後も緊張感をもって仕事をしていきたいと思っています。



民間医局  
2016 東京  
～臨床研修プログラム～  
**レジナビ Fair**



初期臨床病院説明会レジナビフェアのお知らせ

全国各地から多数の病院が集まる“レジナビフェア”が開催されます。  
7月17日(日)に東京で開催される医学生向けの“初期研修フェア”には茨城県の以下の病院が参加します。一度にたくさんの情報を収集することができます。皆様、ぜひご参加ください。

開催日時: **7月17日(日)**  
**10:00～17:00**  
会場: 東京ビッグサイト  
主催: メディカルプリンシプル社

**いばらき合同ブース出展予定 10病院**

- 水戸赤十字病院(水戸市)
- 水戸済生会総合病院(水戸市)
- 水戸医療センター(茨城町)
- 茨城県立中央病院(笠間市)
- 株式会社日立製作所日立総合病院(日立市)
- 株式会社日立製作所ひたちなか総合病院(ひたちなか市)
- 総合病院土浦協同病院(土浦市)
- 東京医科大学茨城医療センター(阿見町)
- 牛久愛和総合病院(牛久市)
- J Aとりで総合医療センター(取手市)

**単独ブース出展予定 4病院**

- 筑波大学附属病院(つくば市)
- 筑波メディカルセンター病院(つくば市)
- 筑波記念病院(つくば市)
- 総合病院水戸協同病院(水戸市)



〈詳細・お申し込みは〉 <https://www.residentnavi.com/>

**茨城県からのお知らせ**

**茨城県医師修学資金貸与制度等に係る受験生・保護者向け説明会**

医学部進学を希望する受験生や保護者を対象とした説明会を開催します。  
茨城県地域枠・修学資金などの制度説明のほか、地域枠設置大学や自治医科大学からの大学紹介もあります。

開催日時	平成28年8月2日(火) 9:00～
開催場所	茨城県総合福祉会館(茨城県水戸市千波町1918) コミュニティホール
参加大学	筑波大学・東京医科大学・東京医科歯科大学・杏林大学・北里大学・帝京大学・自治医科大学
内容	修学資金貸与制度の概要、地域医療支援センター、各大学からのプレゼンテーション等

**茨城県地域医療支援センター**

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療対策課内) TEL: 029(301)3191  
<http://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/iryo/ishi/isei/ishikakuho/top/index.html> E-mail: [i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp](mailto:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp)